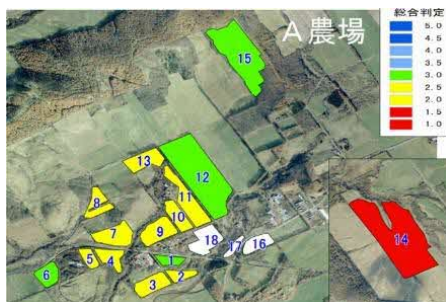


自給飼料を活用した持続的酪農経営の確立

～草と繁殖と私～

釧路農業改良普及センター地域係（弟子屈町上仁多地域）

1 活動のねらい



良質粗飼料
の生産

+

繁殖成績の
改善

乳牛の
疾病予防



生乳生産量アップ
疾病治療費減
農業所得増加

- 新規就農を含む酪農家 12 戸が対象の弟子屈町上仁多地域を中心に活動展開。
- 経年化により、植生の悪化した草地更新を計画的に進め、植生改善を推進。
- 植生改善された草地維持、管理技術の体系化。
- 改善草地から得られた良質粗飼料の給餌で乳生産性、繁殖成績改善、疾病の減少を図り、農業所得を増やすことをねらいとした。

2 活動の経過 H26～R2年

良質粗飼料の生産（植生改善）（H26～H29）

関係機関とは場主筆植生調査実施

・各農家ごとのほ場マップ作製
・牧草率により植生を5段階評価

草地の更新計画を支援

・収穫適期拡大
・更新シミュレーション「草なび」
ソフトを用いた更新計画策定

「草地の達人」の管理手法
を地域内へ波及

草地更新率が
大幅アップ!!

草地維持管理技術を体系化

・ペレニアルライグラスの追播
・分析に基づいた適正施肥実施
・ふん尿春散布の回避、早期散布
・早春の施肥タイミング
・計画的な草地更新

成果確認のほ場植生調査



関係機関による全筆植生調査

草地の優劣を5段階で評価
1 (劣) ← 評価 → 5 (優)

植生改善

繁殖改善（H29～R2）

課題

- ◆ 受胎率の低下
- ◆ 空胎日数の遅延

良質粗飼料の確保

繁殖成績悪化の原因模索

達成ね

○牛群に過肥牛や削瘦牛が多い
○良質な粗飼料が飼料給与に
活かされていない

○農業者の繁殖成績の
改善意識は高い
○良質粗飼料を活かした
飼養管理が必要

受胎率向上に向けた技術改善

★飼料設計の提案・実施

★BCS調査・改善

草地の達人

普通人

1 施肥時期 (早春施肥) (1番草刈取り後)	早い (5月上旬) (7月中旬)	遅い (5月中旬) (7月下旬～)
2 刈取り高	高い (9cm)	低い (5cm)
3 施肥量	草地ごとに 設定	一律に 設定
4 有機物施用 石灰散布	毎年散布	散布なし

地域にいる「草地の達人」の技術を取り入れ、技術の継承を進めた



普及指導員による BCS 調査



分娩後栄養管理の研修会実施



酪農家 K さん

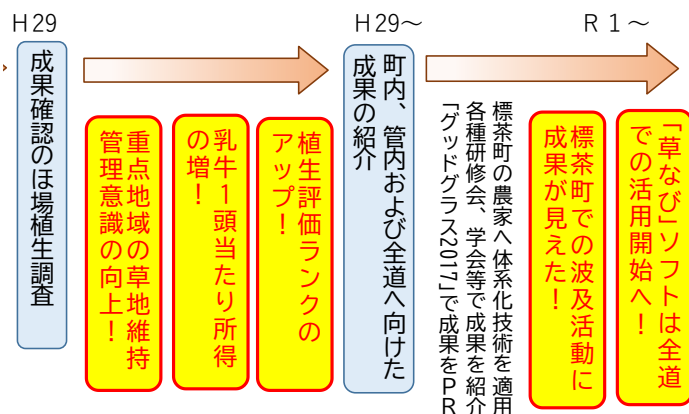
BCS 調査を基にした飼料提案

BCS の推移と周産期疾病発生状況や受胎状況との関連を分析。泌乳ステージに応じた適切な飼料メニューを提案

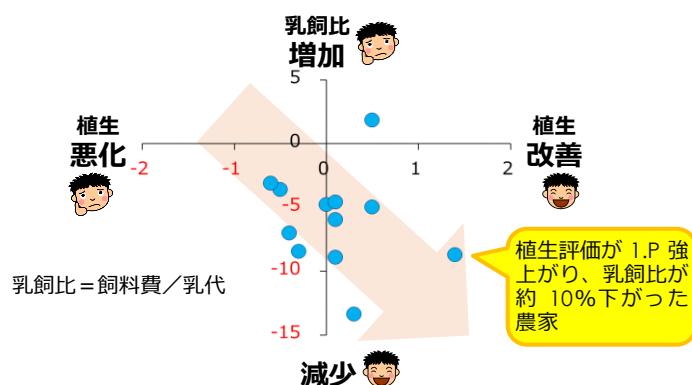
※ BCS : ボディコンディションスコア。牛体の脂肪蓄積度合いを見ただ目でスコア化したもの。人間の BMI に相当。

3 活動の成果

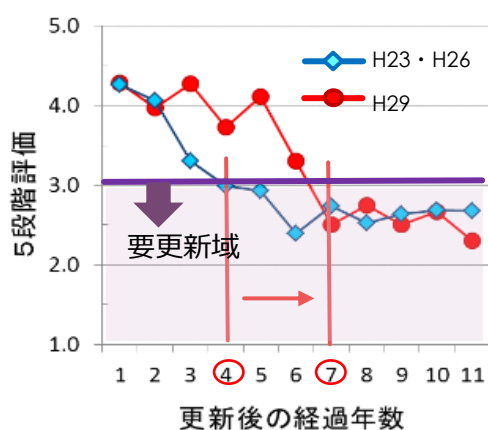
良質粗飼料の生産



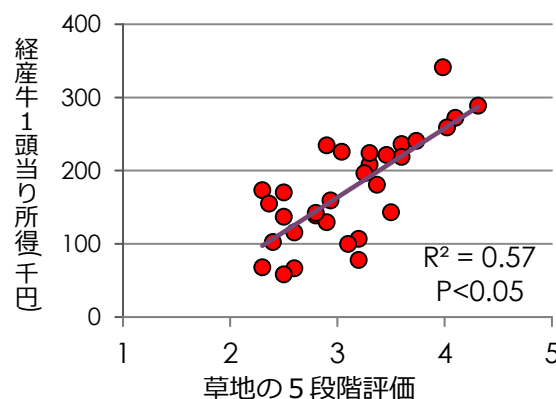
植生評価の改善状況と乳飼比の関係 (H23⇒H29 の差)



植生改善が進んだ農家ほど、乳飼比(経営コスト)が下がった!



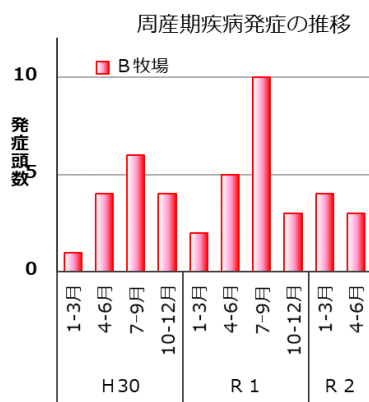
草地の更新年数が延びた(長く使えるように)!



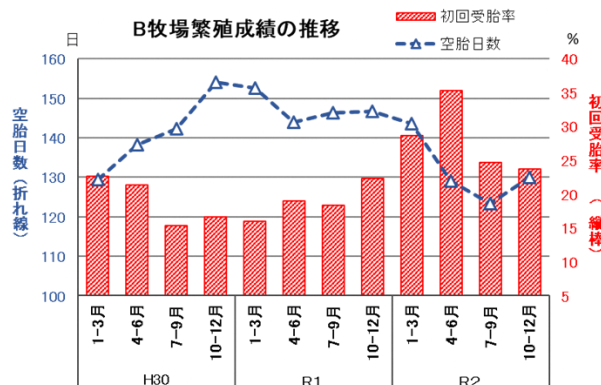
草地管理を良くすることで、所得が増えることを示し、モチベーション向上につなげた!

繁殖成績の改善

乳牛の疾病予防

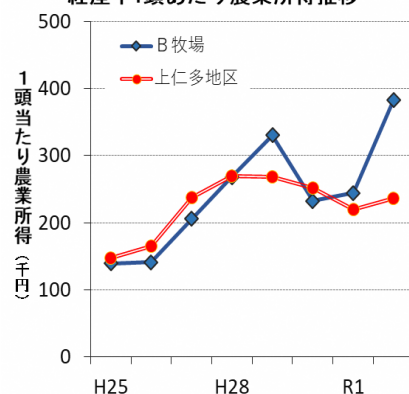


周産期疾病発症の推移



牛群のBCSが適正化され、疾病発症数に減少傾向が現れ、繁殖成績が改善した!

経産牛1頭あたり農業所得推移



農業所得が向上した!

4 成果の活用

- ☆ この成果を参考に、弟子屈町内の他地域および隣接の標茶町で、同様の課題を抱える酪農家に対し、本手法を波及させる。
- ☆ 繁殖技術の改善の取組みでは、少しずつ繁殖成績の改善に成果が見え始めてきた。牛群のBCSを改善することで、受胎率の向上と疾病の予防につなげる取組みを波及させていく。

